

9・13 World Sepsis Day についての御報告

現在、敗血症は世界全体では年間 2,000～3,000 万人が罹患し、年間で約 1,000 万人以上の成人、約 600 万人の小児が死亡していると言われていています。世界レベルでは数秒に一人は敗血症で死亡している現状があります。この原因として、先進国では高齢化、高度先端医療後の免疫機能低下、多剤耐性菌の出現など、一方、発展途上国では栄養失調、貧困、ワクチン不足、治療タイミングの遅れなどの問題が取り上げられ、敗血症死亡率が 30% を超えて高いままに維持されています。しかし、このような敗血症に関する実状は、本邦を含めて広く一般には知られていません。医療従事者においても、敗血症に関する知識や概念に差が認められ、必ずしも均質な治療が行われていないことが知られています。敗血症は感染症罹患による死亡原因であり、未だに世界レベルでは 30%～60% の院内死亡率です。

このような観点より、Global Sepsis Alliance (GSA ホームページ：<http://www.globalsepsisalliance.org/world/>) は、2012 年 9 月 13 日より毎年、世界敗血症デー (World Sepsis Day) を 9 月 13 日に設定し、敗血症に関する以下の 5 つの世界的到達点 (Global Goals) を設定し、2020 年までに以下の 5 つの目標を達成させようとする企画を掲げています。この World Sepsis Day では、4 時間以内に治療を開始することの重要性として 4 時間キャンドルを公共の場で点火し、敗血症についての疫学や診療についての広い知識を公開し、広くマスコミに公表し、これらのモニュメントを YouTube に公開し、敗血症に対する理解を広く本邦や世界に広めるというものです。我が国でも、9 月 13 日を World Sepsis Day に指定し、日本集中治療医学会が中心になり、多くの学会、研究会、

企業に協力を頂くと同時に、広く一般市民、医療従事者、医学生などを対象としてイベントを展開し、活動の輪を広げていきたいと考えております。

2012年9月12日

日本集中治療医学会

国際交流委員会

5つの世界的到達点 (Global Goals)

- 1) 敗血症の政策課題化
- 2) 敗血症診療関係者の動員
- 3) 敗血症診療ガイドライン実施のサポート
- 4) 敗血症発症率と敗血症死亡率の低下
- 5) 敗血症に対する十分な治療とリハビリテーション

2020年までの5つの目標

- (1) 感染症予防により発症率を20%以上減少させる
- (2) 早期発見と緊急治療により生存率を10%以上増加させる
- (3) 一般市民および診療従事者への敗血症への注意喚起を徹底する
- (4) リハビリテーションサービスとの連動を充実させる
- (5) 敗血症症例登録の国際化を推進する